



町長日誌 No.45

町長日誌の第45号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

4月18日(水) PM5:30

昨日17日午後5時、町長選挙が対立候補の届出が無い場合無投票で当選と決まり、二期目を担わして頂くこととなりましたので宜しくお願いいたします。

一期目の任期は4月30日までですので、正式には5月1日からがスタートになります。また、22日夜には新しい町議会議員さん10名も決まり、いよいよ新たな町政の四年間が始まります。私が言うのもなんですが、特に一生懸命支援をされた皆さんは、当選したらそれで終わりではなく4年間どのように町政が動いているのかを支援した町長や議員さんから聞く機会を作ることも町づくりには大切なことだと思います。

さて、西紋別地域では新たに滝上町で澤田町長勇退に伴い長屋栄一町長が誕生しました。私と同じ酪農家で、北見地区農協青年部役員や議会議員では先輩に当たる方です。広域行政などで一緒にお仕事するのが今から楽しみです。

3月28日(水)

北海道医療対策協議会（委員として参加）で産婦人科や小児科の問題が取り上げられましたのでご紹介いたします。全道で1年間に生まれる子供の約半数が札幌圏に集中しています。そしてそれに合わせるように産婦人科・小児科のお医者さんも札幌圏に集中しています。勿論、全道的に両科とも医者が不足していることは、皆が知っていることですが、私は会議の中で「札幌圏に産科・小児科医が集中していると言う事だが、不足している地方に回すことが出来るのか？」と質問すると、道の担当者からは「札幌近郊の恵庭・北広島などではある程度余裕があるが、逆に札幌市内は不足状態でとても地方に派遣できる状況に無い」との答えでした。産婦人科よりもっと悲惨なのが小児科で、特に幼児は夜中に発熱することが多いため、交代する医師が居ない中36時間連続勤務なども当たり前で、医科大学の学生が産科・小児科を避けるのが実態です。従って、今、国・道が対策を講じたとしても、これから少なくとも10年は産科・小児科の医者は不足し続けることは間違いないと言えます。

『政策・施策は如何に先を見つめ考えて行わなければならないか！』と言うことがこのことから分かると思います。

選挙カーで町内を回った時、4年前に比べて雪が多いのに改めて驚きました。農家の肥料撒きや牧柵直しは、少し遅れるかもしれません。新1年生が入学し黄色いランドセルカバーが目につきます。農作業・海での作業そして車での事故に十分気をつけられ楽しいゴールデンウィークをお過ごしください。では、また。



町長のメールアドレスは、mayor@town.okoppe.hokkaido.jpです。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。